

## テゼからの提言 2019年

# もてなすことを忘れないように

旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。(ヘブライ 13:2)

途切れずに継続する青年たちの集い「信頼の巡礼」は、数十年前にテゼで始まり、現在世界中で続いています。

どこの集いにおいても、もっとも心に残る体験はもてなしです。もてなされる青年たちにとっても、彼らのために家を開放する人々にとっても。

2018年の夏に開催された香港大会でも、このもてなしの意味があらためて見直されました。この大会には、全アジアそしてその他の地域から青年たちが集まり、そこにはいまだにいやしを必要とする傷とその歴史を帯びた国々の青年たちもいました。

中国本土のさまざまな地域から 700 人の青年たちが参加しました。これほど多くの国々から集まった青年たちと、香港の多くの家庭から差し出された歓待は、希望のしるしでした。

アジアの若いキリスト者たちの多くは、急激に変化する社会の中で少数派です。彼らは、教会で兄弟姉妹として生きることによって、キリストへの信仰から力をくみ取ろうとしています。

マドリッドで開催されるヨーロッパ大会から始まって、2019年は、テゼで、またバイルート、ケープタウン、その他の場所で開催される大会においても、もてなしのさまざまな意味についてさらに深く黙想し考察します。

以下の提言は信仰に根ざすものです。それは、キリスト者を、神の内にもてなしの源泉を見出すようにと招きます。神についてのイメージについて問いかけます。けっして誰も除外せず、一人ひとりを迎え入れる神。

もてなしの体験には、様々な教派のキリスト者だけでなく、諸宗教の信者たち、そしてさらにはどの宗教に属さない人々も含まれるとテゼのブラザーたちとわたしは理解しています。

不信がはびこる現在の諸問題のただ中で、もてなしを日々生き、信頼を育ませる、そのような勇気に招かれているのです。

ブラザー・アロイス (テゼ・コミュニティー院長)



## 提言 1 神の内にもてなしの源を見出そう

宇宙のはじめから、神は神秘的に働いておられます。この確信が、聖書の最初に描かれている創造の詩的な物語の核心に置かれています。神は創造されたものをご覧になり、それを祝福なさいます。創造の全体がいかに良いものであるかをご覧になった。宇宙全体は神に深く愛されているのです。

神のことばがほとんど何も分からない、そう感じるときもあります。しかし、神はわたしたちの幸せを望み、わたしたちすべてを、一切の前提条件なく、歓迎してくださるという確信の中で歩み続けるのです。神はもてなしの源です。

さらに神は、人類をご自分に引き寄せるために、そしてわたしたちをもてなすために、キリストを通して、わたしたちの一人になるというところまで来られました。わたしたちへの神のもてなしがわたしたちの魂の深

みに触れました。それは溢れ出て、人間のあらゆる境界を越えてゆきます。

- この時代を覆う危難を前にして、絶望に捕らわれてしまうのでしょうか。希望を抱き続けるために、驚きの心を育み、すべての中に感嘆すべきものを見出す、そのような目で周りを眺めるのです。
- ひとりで、あるいはだれかと聖書を読みましょう。イエスの生涯の物語を伝える福音書から始めてはどうですか。すべてをすぐには理解できないかもしれなせん。後になって分かってくることもあります。生きた水が神への信頼を育てるように、聖書とともに近づくのです。

家から離れていた息子はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。(ルカ 15:20)

このたとえ話 (ルカ 15:11-32) は、神のもてなしについて何をおしえているのだろう。

## 提言2 日常生活の中の神の現存に注意を向けよう

神はもてなす方です。しかし、そこにわたしたちの自由な応答があったときに、それははじめて神との本当のコミュニケーションの交わりとなります。

イエスは、神が愛であり、友情をわたしたちに差し出しておられることを表しました。キリストは謙遜にわたしたちの扉の外に立たれて、戸を叩かれます。キリストは貧しい者となり、わたしたちが逆にもてなすことを望み、待っておられます。キリストに戸を開ければ、彼は入ってこられます。

単純素朴な祈りによって、わたしの心はキリストに開かれます。そして、キリストがおられることにほとんど気づかないときも、キリストは、わたしたちの内に宿るために来てくださいます。

- 教会で祈るのです。ほんの短い時間でも、その日を神にゆだねる、ただそのことだけのために、朝か夕に祈りの時間を割くのです。このようなことが、ゆっくりと内なるわたしを成長させてゆきます。神がここにおられると気づくことは、恐れからわたしたちを自由にします。他者への恐れ、わたしは力不足だという恐れ、不確かな未来への恐れ、このような恐れからわたしたちを自由にします。
- 十分な時間がないときは、ほんのわずかなことばをささやくように、キリストに語ればいいのです。自分について、そして近くのあるいは遠くの人々について。自分の中にあることを、そしていつも理解できないことをそのままキリストに語ります。

復活されたキリストは言われた。「わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をする。(黙示録 3:20)

キリストに聞くことはどんな助けになりますか。キリストに向かって「戸を開ける」とはわたしにとって何を意味するのだろう。

## 提言3 自分の資質を受け入れる、そして自分の限界も

神はわたしのすべてを迎え入れます。そしてわたしは自分のありのままのすべてを受諾します。これが、わたしたちみんなに必要ないやしの始まりです。

自分の賜物・資質を感謝して神を賛美しましょう。同時に、自分の弱さも、神がお入りになる扉として受け入れるのです。神は、わたしをさらに導かれるために、またわたしの生活を変容させるために、まず何よりも自分が自分を歓迎することを望んでおられます。

自分の限界を受け入れるということは、人間社会の不正義や暴力や搾取に対して受身になることを意味しません。逆に、自分の限界を受け入れることによって、和解の心で課題に取り組む力が与えられます。

聖霊、それはわたしの存在の深みに隠された炎。それは、いのちに反抗する内外のすべてをゆっくりと変容させます。

- わたしの賜物・資質に気づくために、また自分の限界を受諾するために、親切にわたしに耳を傾けてくれる人、生活と信仰の成長を応援してくれる人を見つけるのです。
- 祈りの中に賛美を含めることはとても大切です。それはみんなを一つに結びます。みんなと歌う祈りは、かけがえのないもので、その歌はしだいにわたしの心の中にとどまり、静かにつづきます。

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの轡くびきを負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの轡は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。(マタイ 11:28-30)

イエスがここで語っておられる重荷と休息とは何だろうか。ここからわたしは何を学ぶのだろうか。

## 提言 4 教会に友情の場所を見出そう

神への信頼を人々と分かち合うためには、自分のよく知る友人たちだけでなく、自分たちとは異なる人々を含めるさらに大きな出会いの場が必要です。

地域の教会やコミュニティーは、異なる世代の人たちや社会的・文化的に多様な背景の人々が集まる場です。そこは友情を育む宝のような場所です。しかしその宝が十分に用いられていないとしたら、その場を活かすことが必要です。

もし地域のすべての教会が、もてなす家族のようになり、だれもがありのままに迎え入れられたら・・・どんな疑いや疑問も受容され、裁かれるのではという恐れから自由な場。

聖霊の風が吹くところ、キリストの友情が輝き出るところ、それが教会です。南半球のある国々では、キリスト者の小さな草の根コミュニティーが、近隣やその村で、広範囲におよぶ奉仕に取り組んでいます。彼らのありようは、他の国々でも新たな創造性のヒントにならないでしょうか。

- 祈りと分かち合いのために、小さなグループで定期的集まることは大切です。しかし同時に、自分の町や村にあるさらに大きなキリスト者の群れを応援しましょう。たとえば、わたしの小さなグループが、日曜日の礼拝に来る人でだれも仲間のいない人に注意を向けることができたら・・・
- キリストは、ご自分を愛し従うすべての人々が、それぞれの教派の所属を超えてひとつの交わりコミュニオンに集まることを願っておられます。互いにもてなし合うことは一致の道です。信仰の表わし方が異なる隣人たちを招き、今まで行ってきた以上に、ともに祈ってはどうか。

十字架の上で、イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。(ヨハネ 19:26-27)

十字架の下で、イエスご自身の意向によって、新たな家族が生まれた。今日、わたしたちはどのように兄弟姉妹として生きるのだろうか。

## 提言5 寛大なもてなしを実践しよう

わたしたちへの神のもてなし、そこにはわたしたちへの神の願いが込められています。他の人を、わたしの望むような人としてではなくて、その人のありのままに歓迎するのです。また、わたしの望むようにではなく、彼らが望むやり方でもてなされることにまかせるのです。

- 人に耳を傾けるために時間をとりましょう。人々を食事に招き、苦悩する人に近づき、出会う人々に優しく声をかける・・・。
- 移民によってもたらされた大きなチャレンジに向き合うとき、もてなす人にとっても、もてなされる人にとっても、もてなしとはひとつの機会なのだを知る道を模索するのです。一対一の出会いは不可欠です。たとえば、移民や難民の一人の物語に耳を傾けます。他のところから来た人との出会いは、同時に、わたし自身のルーツをより良く理解し自己理解を深めることにもなります。
- この大地を大切にする必要があります。このすばらしい地球はみんなに共通のふるさとです。それをもてなしに満ちたものとして未来の世代のためにも維持するのです。そのためには、生活様式を見直すことが大切です。資源の心ない破壊、さまざまな形の汚染や生物多様性の喪失を止めるために可能なすべてに取り組まねばなりません。わたしたちが創造物すべてと連帯しているとき、そこから流れ出る喜びに気づきます。

イエスは言われた。「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイ 25 :40)

弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が「受けるよりは与える方が幸いである」と言われた言葉を思い出すように。(使徒言行録 20 :35)

与えることがもたらす幸せをわたしはいつ体験しただろうか。自分も他者から何かを受けとる必要があることに気づいているだろうか。

\*\*\*\*\*

## 信頼の巡礼 2019年

### テゼ

- 毎週(通年)

日曜日から日曜日、青年たちのための国際的集い

- 若いキリスト者とムスリムの友情の週末：8月22日(木)～8月25日(日)

神との関係や祈りのあり方について分かち合い、互いの違いや互いの一致を表わすことばを模索する。

- 18～35歳の青年を対象とした祈りと分かち合いの一週間：8月25日(日)～9月1日(日)

グループによる黙想と分かち合いや異なる国々の発題者によるワークショップ。希望者は、環境問題と気候変動をテーマにしたプログラムに参加可能。

### ベイルート

エキキュメンカルな青年たちの国際大会：3月22日(金)～3月26日(火)

レバノンの諸教会と中東教会協議会がテゼによって開催される青年大会を初めて迎え入れます。

### ケープタウン

アフリカにおける信頼の巡礼の新たな一歩：9月25日(水)～9月29日(日)

南アフリカ大陸の国々、それ以外の国々の青年たちが集まり、それぞれの信仰を祝い、それについて分かち合います。

次回のヨーロッパ大会：2019年12月28日(土)～2020年1月1日(水) ポーランドのヴロツワフで開催

これらの集いについての詳細：[www.taize.fr](http://www.taize.fr)